

# 新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六

▲ 発行所 新潟県山岳協会

〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

## 秋の親睦登山

### 荒沢岳に参加して

下越山岳会 佐藤ノリ

10月13日雨、「こんなに雨が降るのにとこの山へ行く。」と仏頂面の夫に見送られて家を出る。もしかすると紅葉に逢えるのではないかと秘かに心を踊らせていたので、夫の顔色等余り気にならなかった。

カマボコ型をした奥只見山岳会小屋に着いた時は、日も暮れていた。小屋は、うっすらと灯が点されていて中に男性が一人かいがいしく働いていた。驚いたことに自家発電装置があるのだ。炊事場には水が溢れていた。本棚には山の本がずらりと並び、囲炉裏には、炭が赤々と燃えて、香ばしい網焼きの匂いが漂って何んとも感じの良い小屋である。まだどなたも着いていない。早速ビールと網焼きを御馳走になる。椿象が暖を求めてゾロゾロ集ってくる。次々と火あぶりの刑に処せられる。

やがて奥只見山岳会会長さん、長岡ハイキングクラブの方々が来た。奥只見山岳会の方5人。新潟ハイキングの方5人。新潟より独りで参加した御婦人。下越山岳会の会長、副会長、私と14人のメンバーであった。私は西蒲原の生まれ故郷、長岡の方々の言葉のイントネーションが家族のそれと同じで、郷愁を感じてとても良い居心地を味わった。

かいがいしく働いていた方は、科学技術庁の五十嵐高志氏であり、南極越冬隊の体験者であると聞かされる。話題がいつしか、産業革命以来のエネルギーの大量使用が主因で引き起こされてきた、地球の温暖化の話になっていた。

地球の温暖化が進み、2℃気温が上昇したら細菌の異常繁殖で、人間の英知が追いつかず、お手上げになる。今職場で頭を悩ましている耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)如きもの以上のことが起こると聞かされ、暗い気持ちにさせられる。夜も更けて外へ出てみると満天の星座ではないか!

明日は素晴らしい紅葉に出逢えると思うと仲々眠れない。14日快晴。奥只見山岳会の方々が作ってくださったきのこ汁を頂いて、6時30分、荒沢岳へ向う。室賀会長さん先頭に紅葉を踏みしめながら歩く。荒沢岳は一度きたことがあり、厳しい山であったと印象にある。朝日が眩しい。ブナ林の中の道が終わり鎖場が現われたりして、次第に険しくなってくる。前山の岩峰が聳え立つ。道は30m程下って岩峰基部の岩盤を横切って行く。要所に鎖も固定してあり、心配はないが気をゆるめてはいけない。岩峰基部を横断して草付き急斜面と鎖場をよじ登り主稜に出る。前山である。360度の大展望。全山紅葉で赤や黄、緑の絨毯を敷きつめたようだ。前方に越後駒ガ岳、中ノ岳、荒沢岳山頂、左手に会津駒ガ岳、背後に未丈ヶ岳、手猛山、弥彦角

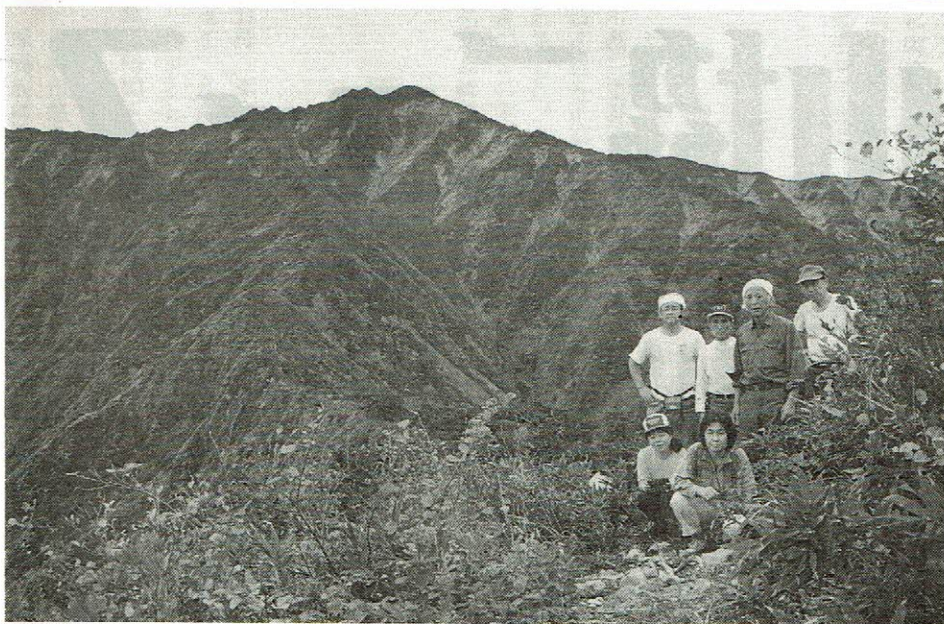
## 新年会案内

日時 1991年1月20日  
(日) 午前11時より  
会場 イタリア軒  
新潟市西堀通り7  
0258-22415111

会費 10000円  
申込 上、下越、新潟、各連絡事務所、又は協会事務局へ。  
長岡市学校町1の12の23  
室賀輝男方  
0258-3210428

田山も望めた。脚下には奥只見の湖水が美しい。10時50分だ。山頂まで2時間ばかりなので前山で引き返そうと会長さんの指令が出る。御婦人は軽い高山病のような症状で、横になり出して何も口にしない。ふと山頂を仰ぐと真綿の様な雲が一つ山頂を包んだ。皆あるものを出し合って又々宴会となった。山男は酒が強い。そんなに飲んで下りは大





前嵯より荒沢岳

丈夫だろうかと一瞬不安になるが、皆今を楽しんでいた。紅葉に見とれて茫然となる。人との出逢いと同じ様に山も一期一会であると思っ

であるから今が愛しくて、大切なのだ。前嵯を下りて振り返って見ると、さっき宴会をした所迄雨雲が追いかけてきている。的確な判断力で指導された室賀會長さんはさすがだと思った。途中、木登りをして〇〇年目の少女の気分も味わえたと、岩登りの基本も

復習でき、毒茸の見分け方も教えて頂き、秋を満喫した山行でした。

## 理事会報告

日時 1990年9月25日  
18時～19時30分

場所 新潟市弁天1 青年の家

出席者 室賀輝男、佐藤一栄、五十嵐篤雄、石田国夫、佐藤貞一郎、藤井信、山田智子、安野正弘、平田大六、田中純夫、桑原悌治、北村猛、高橋秀樹、鈴木敏雄、坂井厚、藤井洋、小林重弘、高橋正英、三富一弥

欠席連絡者 杉原八百樹、堀井浩

議事録署名委員 坂井厚  
特別出席者 日本山岳協会会長 鎌田久

(1) 国体出場支援の件  
10月末行なわれる福岡国体へ本協会から選手が出場する。監督、選手の遠征費は県から支給されるが、支援隊の予算は出ない。今回は安野正弘理

事以下2名の支援隊を考えているので、2名分の旅費など20万円を理事各位の寄附金でまかないたい。

以上のような趣旨を理事長が提案し了承された。細部については理事長に一任する。

(2) 海外登山報告  
8月17日から9月2日にかけてパキスタン北部のパンジヤブ・ヒマラヤに遠征し帰国した件について、藤井洋、田中純夫両理事から報告があった。

(3) 苗場山頂、天下の霊観、碑について  
JAC越後支部長佐藤一栄氏より資料にもとづいて協賛の提案があり了承された。

鎌田会長から、国体山岳競技の考え方や理念、日山協の運営面のきびしさ、若い登山者の減少と中高年登山者の組織化、日山協賛助会員募集などの話がなされた。つづいて出席者から国体参加の実情などについて意見がなされた。

実行委員長に支部長があたり、理事が発起人となって、1口5000円として加盟団体にお願いを配布する。実施

は来年の雪消えを待つこととする。

(4) 後半の事業について  
① 婦人部登山(10月6日～7日) 山田智子理事より説明。  
② 自然保護研修会(10月27日～28日) 桑原悌治理事より説明。  
③ 石田国夫理事より、1991年9月15日～16日に自然保護の全国大会が新潟で引きうけなければならぬ状況の報告があり、了承された。  
④ 藤井信副会長より、審判員と指導員の登録等の事務を一個所でやらないと混乱するので統一方提案がなされ、全員了承する。  
(日本山岳協会会長 鎌田久 氏の話と質疑)



## 山岳競技の見方 ②

## ○ 山岳競技の内容

国民体育大会の正式競技として行われる山岳競技は、財団法人日本体育協会に加盟している日山協が制定した登山の競技で、国体開催県の山岳地帯に日山協が認めた競技会場を使用して開催されます。

## (1) 競技種別・種目・参加者数

参加する種別 (4種別)	実施する種目 (3種目)	競技日数と得点 (1日 100点)		参加するチーム数と人員					選出方法					
				監督	選手	チーム数	計	合計						
成年男子 (満18歳以上男子)	縦走	1日で100点	300点	1	3	46	184名	368名	沖縄を除く各都道府県予選により選出された都道府県単位のチーム。					
	登攀	1日で100点												
	踏査	1日で100点												
成年女子 (満18歳以上女子)	縦走	1日で100点	300点	1	3	15	60名		368名	各ブロック大会により選出された都道府県単位のチーム。 ただし、開催県は、1チーム出場。				
	登攀	1日で100点												
	踏査	1日で100点												
少年男子 (満18歳未満男子)	縦走	2日で200点	300点	1	3	16	64名				368名	各ブロック大会により選出された都道府県単位のチーム。 ただし、開催県は、1チーム出場。		
	踏査	1日で100点												
少年女子 (満18歳未満女子)	縦走	2日で200点	300点	1	3	15	60名						368名	各ブロック大会により選出された都道府県単位のチーム。 ただし、開催県は、1チーム出場。
	踏査	1日で100点												

- ・成年男子は、46都道府県から各1チームずつ参加します。抽せんで2つの隊にわかれて1隊23チームで競技を行います。
- ・少年男子、成年女子、少年女子は、46都道府県を地域によって9つのブロックにわけたそれぞれのブロック大会で選抜された少年男子16チーム、成年女子15チーム、少年女子15チームがそれぞれ1隊となって競技を行います。

## (2) 日程及びコース

種別		第1日	第2日	第3日	第4日	第5日
成年男子 (46チーム)	A (23チーム)	開  会  式	T1	S1	R	表  彰  式
	B (23チーム)		S1	R	T1	
成年女子 (15チーム)	R		T1	S1		
少年男子 (16チーム)	T2		T3	S2		
少年女子 (15チーム)	S2		T2	T3		

〔注〕(1)T1～T3は縦走コースを示す。(2)Rは登攀コースを示す。(3)S1～S2は踏査コースを示す。

### 福岡国体終る

第45回福岡国体が10月21日～25日の間、脊振山系を会場に実施されました。当協会からは成人男子、監督稲田春男、得られました。登攀19位、総合21位の成績を挙げました。

選手阿部隆司、金沢誠也、松御苦芳様でした。

### 第46回石川国体正副審判員

平成3年10月12日～17日石川県一里野を中心に5村で開催される正副審判員が発表されました。当協会からは、縦走T3の主任審判員に安野正弘(高体連)、踏査S1の副

平成3年度の岩登り技術と組で受検できます。

照会先  
杉原八百樹  
☎025412812617

三富 一弥  
☎025122218997  
田中 栄弘  
☎025813415595

### 地区別審判員研修会案内

毎年北信越5県が巡回順で会場設定し、開催される審判員研修会は、今年度長野県で開催されます。日時等はまた案内があります。(例年2月中旬1泊2日)が、審判員資格を希望する人、また資格が有る人で研修を積みたいと思う人、連絡を左記問い合わせ先までお願いします。例年案内から実施日まで日数が少ないので、今年は事前に希望者の把握に努めておきたいと思

た者。

(3)山岳競技に関心のある者。

◎費用

参加費 10000円  
資料費 10000円

他宿泊費、交通費各自

なお詳細は、国体事務局山田智子(☎025124413)まで問い合わせください。

加盟団体各位

### 新潟県スポーツ振興基金の

寄附について

◎参加資格

(1)審判員資格認定研修会は、指導員の資格があって、所属岳連(協会)会長より推薦された者。

県体育協会では、昭和60年から県民のスポーツ振興を図るため、5億5千万円の大目標を掲げ募金活動を展開してまいります。

◎銀行振込  
新潟県山岳協会普通口座  
第四銀行長岡駅東支店  
口座番号 1116600

### 日山協第2種・地区指導員

### 検定会案内・冰雪技術

日時 平成3年2月24日(日)  
場所 長岡市栖吉町 風谷山 (521m)にて  
集合時間・集合地・日程  
2月24日午前7時50分  
長岡市悠久町 長岡市宮野球場前に集合

各自の車にて栖吉町登山口まで行き、午前・午後と実技、指導方法の検定、天気図作成、15時30分散散予定  
携行品 食糧、筆記具、氷雪技術に必要な用具

※今回の冰雪技術受検者は、

**登山用品専門店**

— 信頼できるパートナー —

**大新スポーツ**

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736